

令和元年度（2019年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

資料 1

令和1年9月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	雨竜町	外山 謙一	無職	農村景観保全・自然再生活動等	土地連	令和4年3月31日	
2	空知	沼田町	野 道夫	無職	自然再生活動等	町長	令和3年3月31日	
3	空知	岩見沢市	高柳 広幹	改良区職員	環境整備活動等	土地連	令和3年3月31日	
4	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	市長	令和3年3月31日	
5	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
6	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和3年3月31日	
7	後志	喜茂別町	遠城 諭史	会社員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
8	後志	喜茂別町	坂爪 洋介	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
9	後志	喜茂別町	白川 博順	地方公務員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
10	後志	蘭越町	松山 廣	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
11	胆振	厚真町	荒城 敏文	改良区職員	環境整備活動等	土地連	令和3年3月31日	
12	日高	浦河町	中村 勇市	農業	環境整備・農作業体験	土地連	令和3年3月31日	
13	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
14	日高	浦河町	以西 明美	自営業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
15	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
16	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
17	渡島	知内町	佐藤 暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和3年3月31日	
18	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和3年3月31日	
19	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産品加工直売	町長	令和3年3月31日	
20	渡島	八雲町	元山 美芳	農業	農産物加工販売等	町長	令和3年3月31日	
21	渡島	七飯町	田中 いずみ	無職	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
22	檜山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
23	檜山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和4年3月31日	
24	檜山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和2年3月31日	
25	檜山	せたな町	富樫 一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
26	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
27	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和2年3月31日	
28	上川	南富良野町	鷹嘴 充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
29	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
30	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	令和2年3月31日	
31	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
32	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
33	上川	鷹栖町	池田 修也	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
34	上川	鷹栖町	中江 正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
35	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和4年3月31日	
36	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
37	宗谷	稚内市	菊池 工	会社員	地域活動全般	市長	令和2年3月31日	
38	宗谷	豊富町	尾崎 滋	団体職員	都市農村交流等	町長	令和2年3月31日	
39	林-ㇿ	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	令和3年3月31日	
40	林-ㇿ	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
41	林-ㇿ	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
42	林-ㇿ	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
43	林-ㇿ	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
44	林-ㇿ	興部町	八木 実央	地方公務員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
45	林-ㇿ	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
46	林-ㇿ	津別町	佐野 多希子	農業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
47	林-ㇿ	津別町	河本 純吾	農業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
48	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和4年3月31日	
49	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
50	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和4年3月31日	
51	釧路	鶴居村	水本 梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和2年3月31日	
52	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	
53	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
54	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
55	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	令和2年3月31日	

令和元年度（2019年度） 北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和1年9月 現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性			
道央16名	空知5名	△外山 謙一（雨竜町）	後志4名	遠城 諭史（喜茂別町）
		野 道夫（沼田町）		坂爪 洋介（喜茂別町）
		高柳 広幹（岩見沢市）		白川 博順（喜茂別町）
		<u>小西 泰子</u> （岩見沢市）		松山 廣（蘭越町）
		金丸 大輔（栗山町）	石狩1名	○阿岸 哲広（石狩市）
	日高5名	中村 勇市（浦河町）	胆振1名	荒城 敏文（厚真町）
		中川 貢（浦河町）		
		<u>以西 明美</u> （浦河町）		
		佐藤 剛（新冠町）		
		△田中 義光（日高町）		
道南9名	渡島5名	佐藤 暁樹（知内町）	檜山4名	佐々木 俊司（厚沢部町）
		<u>笠松 悦子</u> （知内町）		小笠原 明彦（江差町）
		○小林 石男（八雲町）		△吉見 俊彦（上ノ国町）
		<u>元山 美芳</u> （八雲町）		富樫 一仁（せたな町）
		<u>田中いずみ</u> （七飯町）		
道北13名	上川9名	中村 雅義（幌加内町）	留萌2名	長澤 政之（小平町）
		△ <u>岩永かずえ</u> （南富良野町）		高野 幸子（小平町）
		<u>鷹嘴 充子</u> （南富良野町）	宗谷2名	菊池 工（稚内市）
		◎小野寺 孝一（当麻町）		尾崎 滋（豊富町）
		佐藤 績（上川町）		
		<u>辰巳 明美</u> （上川町）		
		<u>久保 照美</u> （中富良野町）		
		池田 修也（鷹栖町）		
		<u>中江 正博</u> （鷹栖町）		
道東17名	林-ツ9名	△ <u>馬淵 陽子</u> （北見市）	十勝2名	<u>伊藤 由紀子</u> （帯広市）
		黒須 倫子（北見市）		<u>高橋 貴子</u> （鹿追町）
		久保美恵子（湧別町）		
		<u>柳谷亜紀子</u> （清里町）	釧路3名	○服部 政人（鶴居村）
		仲元寺恒平（興部町）		<u>水本 梨佳</u> （鶴居村）
		<u>八木 実央</u> （興部町）		<u>高橋 美佐子</u> （厚岸町）
		<u>石井 恭子</u> （雄武町）	根室3名	<u>水沼 和子</u> （別海町）
		河本 純吾（津別町）		<u>渡邊 広美</u> （別海町）
		佐野 多希子（津別町）		<u>尾形 好枝</u> （別海町）

計55名



団体名		厚床地域農村再生プロジェクト プロジェクトチーム				市町村名		根室市		地区名		厚床	
めざす姿		地域資源を活かし、農商工連携を促進しながら、都市と地域の交流拠点づくりに取り組み、地域の活性化を図る											
活動の方向	No.	活動の内容				目標(数値・定性)			解決すべき課題				
	①	◇厚床地域ビジョン作成に関する取組み ・地域間及び世代間交流人口の増加 ・地域資源(魅力)の確認				・地域ビジョン作成 ・防災キャンプ開催 ・あつとこ農園開設 ・自然学習会開催 ・フットバス整備 ・交流会開催 ・視察研修 ・地域マップ作成 ・PR動画制作 ・ワークショップ開催			・地域への活動内容の周知及び理解を得る ・農繁期の活動体制 ・関係機関との連携強化 ・役割分担の確率				
	②	◇活動内容の地域への周知及び理解の促進				・SNS等を活用した情報発信 ・ワークショップ開催			・役割分担の確率				
3年間の活動プロセス	活動事項	関連No.	平成30年度			令和元年度			令和2年度			最終目標	適用事業
			内容	予算額(千円)	年度目標	内容	予算額(千円)	年度目標	内容	予算額(千円)	年度目標		
	厚床地域ビジョン作成に関する取組み	①							地域ビジョン作成	2,000			中山間ふるさと・水と土保全対策事業
		①	防災キャンプ	174	1回	防災キャンプ	920	1回	防災キャンプ	920	1回		
		①				あつとこ農園	400		あつとこ農園	100			
		①							自然学習会(菓箱作り、バードウォッチング)	50	2回		
		①	フットバスコース整備	41		フットバスコース整備	210		フットバス看板設置	200			
		①	交流会(パークゴルフ)	0	1回				交流会(パークゴルフ、百人一首、食事会など)	10	2回		
		①				視察研修	260		視察研修	260			
		①							地域マップ作成	200	1千部		
		①							PR動画制作	1,000			
①②		ワークショップ	405	4回	ワークショップ	390	4回	ワークショップ	400	4回			
活動内容の地域への周知及び理解の促進	②	SNS等での情報発信	-	随時	SNS等での情報発信	-	随時	SNS等での情報発信	-	随時			
		専修大学		教授 泉 留維(フットバス)									
		北海道教育大学釧路校		准教授 宮前 耕史(通楽合宿)									

別記様式第4号

活動計画

団体名	桧山南部サヤエンドウ生産組合企画班	市町村名	上ノ国町	地区名	上ノ国
めざす姿	・「絹さやえんどう」を活用して、上ノ国町の「食」の魅力を地域内外に発信し、また地産地消を促進することで地域内経済を活発にして地域振興、産地の維持を図る。				
活動の方向	No	活動の内容	目標(数値・定性)	解決すべき課題	
	①	町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育イベントの開催(年1回)</li> <li>・「絹さやえんどう」に関係した情報の発信(随時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に必要な絹さやえんどうの確保。</li> <li>・絹さやえんどう消費の行事化。</li> <li>・町民の「絹さやえんどう」に対する十分な理解。</li> </ul>	
	②	地元料理店と連携し「絹さやえんどう料理」を開発、定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「絹さやえんどう料理」の開発</li> <li>・「絹さやえんどう料理」の定番メニュー化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試作、定番メニュー化に必要な絹さやえんどうの確保。</li> <li>・地元料理店との「絹さやえんどう料理」の開発、郷土料理化。</li> <li>・「絹さやえんどう料理」を町民に対し提供する時期の検討。</li> </ul>	
	③	活動体制を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告会の開催(年1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者に対し「絹さやえんどう」による地域食文化の充実、地産地消による地域循環経済についての理解。</li> </ul>	
	④	「絹さやえんどう」地域内流通体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「絹さやえんどう」の販売場所の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内販売用「絹さやえんどう」の確保、集荷体制。</li> <li>・販売場所の検討。</li> <li>・販売単価の設定。</li> </ul>	

3	活動事項	関連No	平成30年度			令和元年度			令和2年度			最終目標	適用事業	
			内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標			
年間 の 活 動 プ ロ セ ス	町民向けの食育活動	①	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	千円 62.71	1回/年 (2月)	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	千円 34.71	1回/年 (2月)	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	千円 100	1回/年 (2月)	町民が「上ノ国＝絹さやえんどう産地」であることへの理解	中山間ふるさと・水と土保全対策事業 (地域活動支援事業)	
			上ノ国産サヤエンドウのPR	2.418	2回/年	上ノ国産サヤエンドウのPR	90	1回/年 (11月)						
						地元学校とのさやえんどう料理検討会	60	1回/年 (12月)						
	「サヤエンドウ料理」の開発、定着	②	「絹さやえんどう料理」の開発	0	2回/年 (10月)	「絹さやえんどう料理」の開発	60	3回/年 (8-9月)	「絹さやえんどう料理」週間開催	100	1回/年 (8-9月)	「絹さやえんどう料理」の郷土料理化		
			さやえんどうスイーツの開発	0	2回/年									
			上ノ国サヤエンドウ料理検討会の開催	235.08	1回/年 (3月)									
	活動体制の強化	③										持続性のある活動体制の確立		
	「絹さやえんどう」地域内販売体制の構築	④							「絹さやえんどう」地域内販売の試行	100	1回/年 (8-9月)	「絹さやえんどう」販売体制の確立		
	関係者等	桧山南部サヤエンドウ生産組合企画班						代表 大口 勇 連絡先						
		上ノ国町						農林課農業林業グループ主査 石山 雄大 連絡先 0139-55-2311						
JA新函館厚沢部基幹支店						生産施設課調査役 出口 秀樹								
檜山農業改良普及センター						広域主査(高付加価値化) 深尾 伸一 (作物(稲))								

別記様式第4号

活動計画

団体名	WEAVE		市町村名	由仁町		地区名	由仁地区						
めざす姿	<p>由仁町は、札幌圏に比較的近いという立地条件も影響し、過疎化・高齢化が進行し、農村地域としてのコミュニティの脆弱化が深刻で、地域の活力が低下している。このような中、町内には町外から嫁に来た女性が多く、この女性たちの間から、「町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことが分からず不安なので、もっと知りたい。」などの要望が上がり、普及センターが仲介役となって若手女性の会『WEAVE』（編む、織るという意味）が平成25年3月に設立された。会の目的としては、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで、地域の活性化に貢献することである。農村地域にとって、女性たちの存在は活性化のキーになる。今後、この『WEAVE』の活動を促進することにより、高齢者などが蓄積している食に関する伝統技術を継承し、イベントなどを通じて町内外の活発な交流を進めることで、『WEAVE』のメンバーを含め多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になる、生き活きと農村生活を送ることができるようになる。また、乾燥野菜の販売などを通じて、『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、このような仲間の拡大を促進することで、由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。</p>												
活動の方向	NO	活動の内容		目標(数値・定性)		解決すべき課題							
	①	<p>学習・グループ活動事業 町外から嫁に来た女性が、地域の魅力を認識し、地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す。また、地域の魅力を発信していく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>新規会員の確保 1人/年</li> <li>農産物加工実習の実施 1回/年</li> <li>SNS を利用した由仁町農業・農村の魅力発信 10回/年</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>新規会員の確保</li> <li>地域の伝統的な農産物加工技術の習得</li> <li>地域の魅力発信のための情報伝達技術の習得</li> </ul>							
	②	<p>乾燥野菜加工販売事業 乾燥野菜の加工及び試験販売を行う。製造工程の整備、効率化及び衛生管理を向上する。また、販売拡大のため、レシピの開発および商品の改良、販売 PR 方法の改善を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>乾燥野菜製造販売の取組 150袋/年</li> <li>製造マニュアルの作成 完成品1</li> <li>衛生管理研修の実施 1回/年</li> <li>製造工程の整備・効率化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な栽培・加工による商品の生産</li> <li>製造工程の効率化および衛生管理の向上</li> <li>商品の改良</li> <li>レシピの開発、販売 PR 用パンフレットの作成</li> </ul>							
	③	<p>交流事業 野菜販売を通して消費者交流をすすめる。 魅力あふれる地域づくりにつながるようなイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜直売の実施 4回/年</li> <li>クリスマスイベント来場者数 100人/回</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>会員の積極的な参加と計画的な栽培による品揃えの確保による野菜販売の拡充</li> <li>野菜の特徴や調理に関する知識の向上</li> <li>イベントの効果的な PR と開催内容の充実</li> </ul>							
3年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成31年度		令和2年度			令和3年度			最終目標	適用事業	
			内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標		
	学習・グループ活動事業	①②	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催	活動の活性化と知識・スキルの習得、農産物加工技術習得	
		①②	農産物加工実習	30	1回/年開催	農産物加工実習	30	1回/年開催	農産物加工実習	30	1回/年開催		
	乾燥野菜加工販売事業	②	製造にかかる資材費	85	150袋/年製造	製造にかかる資材費	85	150袋/年製造	製造にかかる資材費	85	150袋/年製造	地域特産品として生産体制を整え本格販売を開始する	
		②	販売促進にかかる資材費	90	名刺・ショップカード800枚エプロン20枚	販売促進にかかる資材費	50	パッケージ・シール各300枚	販売促進にかかる資材費	90	パッケージ・シール各500枚		
		②③	販売促進にかかる出店料・運搬料	60	クラシェ2回	販売促進にかかる出店料・運搬料	60	クラシェ2回	販売促進にかかる出店料・運搬料	60	クラシェ2回		
②		レシピ開発・作成	30	レシピ集300部	レシピ開発・作成	50	レシピ集500部	レシピ開発・作成	50	レシピ集500部			
交流事業	②③	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	30	ポスター40部 チラシ200部	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	30	ポスター40部 チラシ200部	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	30	ポスター40部 チラシ200部	地域のイベントとして定着させ、消費者交流の場とする		
関係者等	由仁町産業振興課農政担当				主査		関澤 和之（連絡先 0123-83-2114）						

## 令和元年度（2019年度）研修事業

## 1 WEB版「里づくり」の発行

- (1) 発行 毎月、随時
- (2) 内容 委員会、研修事業、指導員の活動状況等について

## 2 第1回幹事会

- (1) 日時 令和元年（2019年）5月15日（水） 13:00～15:00
- (2) 場所 道庁本庁舎7階 農政部第1中会議室
- (3) 出席者 12名（うち幹事7名）
- (4) 内容 指導員委嘱状況の報告  
ブロック別ミーティング、地域づくり研修会、現地研修会、里づくり19号（令和元年7月）の内容検討

## 3 情報誌「里づくり19号」

- (1) 日時 令和元年（2019年）7月16日
- (2) 部数 1,000部
- (3) 内容 リレーインタビュー 合同会社 竹内農園  
実践！地域づくり 七飯の食を考える会（七飯町）  
トピックス

## 4 現地研修

- (1) 日程 令和元年（2019年）7月25日（木）～26日（金）
- (2) 場所 遠軽町、興部町、雄武町
- (3) 出席 26名（うち指導員18名）
- (4) 内容 興部町：興部町の町づくりの取組の報告（仲元寺指導員、八木指導員）  
雄武町：JA ゆうべつ町女性部マルシェ部会の取組について報告（久保指導員）  
韃靼そばによる耕作放棄地解消及び6次産業化について（石井指導員）  
遠軽町：農家民宿の取組について（えづらファーム 江面陽子氏）  
「じゃがりんピック」の取組について  
（JA えんゆう白滝じゃが生産部会加工班長 大久保真由美氏）  
白滝の案内によるジオパーク視察  
（遠軽町埋蔵文化財センター長 長原裕一氏）

## 5 ブロック別ミーティング

## (1) 道東ブロック

- ア 日程 令和元年（2019年）8月8日（木）～9日（金）
- イ 場所 鶴居村
- ウ 出席 10名（うち指導員6名）
- エ 内容 講演：音更メロディーラインの取組 津島朗氏（北海道指導農業士）  
活動報告：馬淵指導員、高橋(貴)指導員、服部指導員、水本指導員  
現地視察：ワイン用ブドウ圃場、鶴居村ふるさと博物館みなくる、鶴居たんちょう  
プラザ「つるぼーの家」、ハートンツリー  
ワークショップ：ふる水事業の見直し検討

(2) 道央ブロック

- ア 日 程 令和元年(2019年)8月28日(水)  
イ 場 所 札幌市  
ウ 出 席 12名(うち指導員6名)  
エ 内 容 活動報告:沼田町での地域起こしについて(野指導員)  
ワークショップ:ふる水事業の見直し検討

(3) 道北ブロック

- ア 日 程 令和元年(2019年)9月3日(火)  
イ 場 所 幌加内町  
ウ 出 席 14名(うち指導員6名)  
エ 内 容 現地視察:幌加内そば道場  
活動報告:幌加内町のそば振興について(中村指導員)  
ワークショップ:ふる水事業の見直し検討

(4) 道南ブロック

- ア 日 程 令和元年(2019年)9月9日(月)~10日(火)  
イ 場 所 厚沢部町  
ウ 出 席 17名(うち指導員6名)  
エ 内 容 現地視察:東谷農園加工施設、札幌酒精工業(株)厚沢部工場  
活動報告:檜山南部サヤエンドウ生産組合の取組について  
ワークショップ:ふる水事業の見直し検討 他

6 全国研修会

(1) 日 程 令和元年(2019年)9月12日(木)~13日(金)

(2) 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)

(3) 出 席 4名(うち指導員3名)

(4) 内 容

講演1:農村地域の定住条件の強化に係る施策について

農林水産省農村振興局農村計画課農村政策推進室長 大畠学人氏

講演2:持続可能な地域社会をつくる営業力とホスピタリティ

(株)第一プログレス常務取締役 TURN プロデューサー 堀口正裕氏

講演3:農村地域の定住条件強化の取組事例「ICTと再生可能エネルギーを利用した農村企業連携と農村福祉活動の紹介」

一般社団法人ふるさと屋理事 高橋幸照氏

事例紹介1:「農業高校生の力で中山間地域を活性化!中山間ふるさと活性化チャレンジ事業について」

千葉県農林水産部農地・農村振興課技師 佐藤龍一氏

NPO 法人千葉自然学校事業部・受託事業課長 佐藤玲子氏

事例紹介2:「このままでは限界集落に、何とかしようと住民が立ち上がり、さまざまなことにチャレンジして11年、今では移住者も来てくれ地域が元気になりました!」

花巻市高松第三行政区ふるさと地域協議会事務局長 熊谷哲周

事例紹介3:中山間地域の活性化について

農林水産省農村振興局地域振興課中山間地域・日本型直接支払室長

荻野憲一氏

7 第2回幹事会

(1) 日 程 令和元年(2019年)10月30日(水)14:00~16:00

(2) 場 所 北海道立道民活動センターかでの2.7 320会議室

(3) 内 容 指導員委嘱状況の報告

地域づくり研修会、次期事業実施計画等の内容検討

8 「子供都市・農山漁村交流体験活動」による地域づくり

(1) 日 程 令和元年(2019年)11月21日(木)～22日(金)

(2) 場 所 全国市町村国際文化研修所(滋賀県)

(3) 出 席 指導員1名

(4) 内 容 来年度の研修日程、指導員会規約案等の決定

ア 導入講義本研修のねらい：～学校側と受入側との協働～

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 次長 花垣 紀之 氏

イ 受入側の事例紹介：特色ある先進的な取組事例の紹介①

一般社団法人南紀州交流公社 事務局長 佐本 真志 氏

ウ 受入側の事例紹介：特色ある先進的な取組事例の紹介②

新潟県胎内市 前教育長 小野 達也 氏

エ グループワーク：学校のねらいと地域課題を踏まえた宿泊体験活動のプログラムの作成

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 次長 花垣 紀之 氏

一般社団法人南紀州交流公社 事務局長 佐本 真志 氏

新潟県胎内市 前教育長 小野 達也 氏

オ 国の支援施策説明：「子ども農山漁村交流プロジェクト」関連支援施策

総務省、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、文部科学省、農林水産省、環境省

カ 講義：教育的な効果を高めるプログラムの展開方法について

独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 参事 小林 真一 氏

キ グループワーク：学校のねらいと地域課題を踏まえた宿泊体験プログラムの作成

～プログラムの検討、検討結果の発表、講評～

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 次長 花垣 紀之 氏

独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 参事 小林 真一 氏

9 農たび・北海道ネットワーク研修会

(1) 日 程 令和元年(2019年)12月3日(火)9:00～16:00

(2) 場 所 TKP札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム6A

(3) 出 席 110名(うち指導員7名)

(4) 内 容

ア 講 演 北海道における農泊取組の可能性と課題について

千葉大学大学院園芸学研究科 教授 大江 靖雄 氏

イ パネリスト活動紹介 [パネリスト] NPO法人やくも元気村 事務局長 赤井 義大 氏

歯舞漁業協同組合 参事 中村 直樹 氏

オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会

副会長 道山 マミ 氏

ウ パネルディスカッション

エ 情報提供① 道における「農たび・北海道」の情報発信について

オ 意見交換会 どんな“農たび”してみたい?地域のコンテンツを磨こう!

ファシリテーター 札幌大谷大学社会学部地域社会学科 教授 山下 成治 氏

アドバイザー 札幌大谷大学芸術学部美術学科 教授 堀 じゅん子 氏

准教授 島名 毅 氏

カ 情報提供② 民泊の導入による滞在型観光の推進について

キ 情報提供③ 北海道の美しい農山漁村と景観について

----- (以下、今後の予定) -----

## 10 第3回幹事会

- (1) 日 程 令和2年(2020年)2月13日(木) 10:00~11:30
- (2) 場 所 北海道第二水産ビル8階 8E会議室
- (3) 内 容 来年度の研修日程、指導員会規約案等の決定

## 11 地域づくり研修会

- (1) 日 程 令和2年(2020年)2月13日(木) 13:15~17:30
- (2) 場 所 ANAクラウンプラザホテル札幌3階 祥雲
- (3) 内 容

- ア 基調講演 NPO 法人食の自給ネットワーク 事務局長 大熊久美子
- イ パネリスト活動報告 滝上町観光協会 ジョーダン・フレイジャー氏  
みいやん農園代表 佐々木碧氏  
生活協同組合コープさっぽろ職員 高橋貴子氏  
JA 函館市亀田 女性部 山田美代子氏
- ウ パネルディスカッション

## 12 指導員会

- (1) 日 程 令和2年(2020年)2月14日(金) 9:00~11:30
- (2) 場 所 北海道第二水産ビル4階 4F 会議室
- (3) 内 容 グループ討議  
来年度の研修日程等、指導員会規約案等の承認  
振興局・ブロック別会議  
次期幹事の選任、R2年度振興局・ブロック別会議の開催について

## 13 情報誌「里づくり」20号(2月下旬発行)

- (1) 部 数 1000部
- (2) 内 容 リレーインタビュー 北海道アルバイト情報社 伊藤新氏  
ふる水指導員レポート 金丸指導員  
ふる水事業実施地区紹介 上ノ国町 檜山南部サヤエンドウ生産組合  
農たび・北海道ネットワーク研修会 報告  
その他 新規委嘱者紹介等

(3) 令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度）  
の事業実施計画等について [資料5]

- ア 事業実施計画（H27～H31）の達成状況
- イ 事業実施計画（R2～R6）の策定について
- ウ 研修計画（R2～R6）の策定について
- エ ワークショップ意見の事業への反映について
- オ 実施方針等の改正について

# 中山間ふるさと・水と土保全対策事業

## 事業実施計画

計画期間：平成27年度～平成31年度

### 計画内容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業実施の成果目標
3. 事業計画

北海道

## 1. 事業実施の基本方針

<p><b>現状と課題</b></p>	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件に恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、農村地域の存立や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理開発など、農地や自然環境、景観など地域の多様な資源を活かした様々な活動を促進してきたが、地域の自立した持続的な取組には至っていない状況にある。</p>
<p><b>事業実施の基本方針</b></p>	<p>農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動を促進する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの一連の取組を地域住民が積極的に参画して実施することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持たせた効果的な住民活動が実施されるよう促すものである。</p> <p>また、地域の取組体制など条件が整った地区においては、関係機関が連携し、各種事業や施策を有効活用して、環境や産業、食、交流、文化など各種分野に関する様々な活動を地域マネジメントの視点を持って戦略的・総合的に進め、相乗効果の上がるような取組を行う。</p> <p>以上のような取組を効果的に実施するためには、ふるさと・水と土指導員等地域住民活動を側面支援する人材が必要になることから、地域に愛着を持って、地域づくりに貢献しようとする意欲ある人材の育成にも努める。</p> <p>これらの取組の成果については、全道各地で住民活動の活発化を図る観点から、HPや情報誌の発行などを通して、全道に普及する。</p>
<p><b>計画後の目指す姿</b></p>	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かした自立意識を持った住民の活動が持続化することにより、農業・農村の多面的機能が良好に発揮され、中山間地域の活性化を図る。</p>

## 2. 事業実施の成果目標

事業区分	主な成果目標	数値目標	内容
<p><b>調査研究事業</b></p>	<p>道内における地域住民活動の活発化</p>	<p>地域活動支援地区10地区実施</p>	<p>他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区を10地区程度実施する。</p>
<p><b>研修事業</b></p>	<p>北海道ふるさと・水と土指導員の育成</p>	<p>指導員会及び研修会の開催（3回／年）、全国研修会への派遣（5名／年）</p>	<p>地域住民活動の活発化に向けた指導・助言等を行う人材を育成するため、北海道ふるさと・水と土指導員等を対象にした全道研修会の開催や全国研修会への派遣を実施し、指導員等の資質の向上を図る。</p>
<p><b>推進事業</b></p>	<p>事業の普及・促進</p>	<p>委員会の開催（2回／年） 事業内容や取組を紹介したHPの更新</p>	<p>事業の効果的な実施が図られ、また、事業の成果及び農業・農村の多面的機能の役割などが広く道民に理解され、道内各地において住民活動が活発化するよう、委員会で助言を得るとともにHP等を活用して取組の成果等を普及する。</p>

### 3. 事業計画

事業区分	事業名	現況値		計画期間 における 必要事業 量	計画期間 における 実績事業 量(H30ま で)	参考年度別事業量									
		～H26	うちH26			H27		H28		H29		H30		H31	
						予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績
調査研究事業	地域活動支援	30地区	2地区	10地区	5地区	2地区	2地区	2地区	0地区	2地区	1地区	2地区	2地区	2地区	
研修事業	指導員会及び 研修会の開催	34回	3回	15回	12回	3回									
	全国研修会へ の派遣	93名	4名	25名	20名	5名	6名	5名	6名	5名	5名	5名	3名	5名	
	「里づくり」 の発行	10回 10,400部	2回 2,000部	10回 10,000部	8回 各1,000部	2回 各1,000部									
推進事業	委員会の開催	46回	3回	10回	12回	2回	3回	2回	3回	2回	3回	2回	3回	2回	
	ホームページ での情報発信	H12年8 月開設	更新	継続的に 実施	継続的に 実施	更新	随時 更新	更新	随時 更新	更新	随時 更新	更新	随時 更新	更新	
参考事業費	ふる水基金					12,360	10,476	13,513	10,299	13,314	9,612	13,307	7,449	13,504	
	棚田基金					487	487	487	487	489	489	489	489	488	
	合計					12,847	10,963	14,000	10,786	13,803	10,101	13,796	7,938	13,992	

(別紙様式)

# 中山間ふるさと・水と土保全対策事業

## 事業実施計画(案)

計画期間：2020年度～2024年度

### 計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業実施の成果目標と評価
3. 事業計画（実績）

北海道

## 1. 事業実施の基本方針

目標年度	2024年度
現状と課題	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件に恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、農村地域の存立や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理開発など、農地や自然環境、景観など地域の多様な資源を活かした様々な活動を促進してきたが、地域の自立した持続的な取組には至っていない状況にある。</p>
事業実施の基本方針	<p>農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動を促進する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの一連の取組を地域住民が積極的に参画して実施することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持たせた効果的な住民活動が実施されるよう促すものである。</p> <p>また、地域の取組体制など条件が整った地区においては、関係機関が連携し、各種事業や施策を有効活用して、環境や産業、食、交流、文化など各種分野に関する様々な活動を地域マネジメントの視点を持って戦略的・総合的に進め、相乗効果の上がるような取組を行う。</p> <p>以上のような取組を効果的に実施するためには、ふるさと・水と土指導員等地域住民活動を側面支援する人材が必要になることから、地域に愛着を持って、地域づくりに貢献しようとする意欲ある人材の育成にも努める。</p> <p>これらの取組の成果については、全道各地で住民活動の活発化を図る観点から、ホームページや情報誌の発行などを通して、全道に普及する。</p>
計画後の目指す姿	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かした自立意識を持った住民の活動が持続化することにより、農業・農村の多面的機能が良好に発揮され、中山間地域の活性化を図る。</p>

## 2. 事業実施の成果目標と評価

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値（実績値）					事業実績の評価		
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	達成度(%)	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針
① 調査研究事業	地域住民活動実施市町村数	36市町村	46市町村	38市町村	40市町村	42市町村	44市町村	46市町村			
② 研修事業	指導員設置市町村数	38市町村	48市町村	40市町村	42市町村	44市町村	46市町村	48市町村			
③ 推進事業	委員会開催回数 里づくり発行回数	10回 10回	10回 10回	2回 2回	2回 2回	2回 2回	2回 2回	2回 2回			

### 3. 事業計画（実績）

事業（取組）名	事業（取組）内容	関連する目標	事業実施要綱上の該当項目	年度ごとの参考事業量					総事業費	
				2020年度 (事業費)	2020年度 (事業内容)	2021年度 (事業費)	2022年度 (事業費)	2023年度 (事業費)		2024年度 (事業費)
地域活動支援	地域の現状把握や活動計画、実践活動への支援	①	第3-2-(1)	3,600	地域活動支援事業の実施（6地区）	3,600	3,600	3,600	3,600	18,000 (0)
指導委員会及び研修会の開催	指導員等における情報交換や地域づくりの手法等を学ぶ指導委員会及び研修会の開催	②	第3-2-(2)	3,400	現地研修の実施（2回） 地域づくり研修会の実施（1回）	3,400	3,400	3,400	3,400	17,000 (0)
全国研修会への派遣	ふるさと保全ネットワークと農林水産省が共催する研修会に北海道ふるさと・水と土指導員等を派遣	②	第3-2-(2)	400	全国研修会への派遣（5名）	400	400	400	400	2,000 (0)
「里づくり」の発行	地域づくりの先進事例や指導員の活動状況などを掲載した情報誌の発行	②	第3-2-(2)	100	年2回の情報誌の発行	100	100	100	100	500 (0)
委員会の開催	学識経験者等から事業の効果的な実施のための指導・助言等を得る委員会の開催	③	第3-2-(3)	500	委員会の開催	500	500	500	500	2,500 (0)
情報発信	事業の内容や取組状況をホームページ等を利用して広範囲に発信する。	③	第3-2-(3)	1,000	地域づくり情報誌の購入、配布 ホームページの更新	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000 (0)
参考事業費の合計				9,000 (0)		9,000 (0)	9,000 (0)	9,000 (0)	9,000 (0)	45,000 (0)

※事業費の額については、令和元年度の運用益額で仮に記入している。

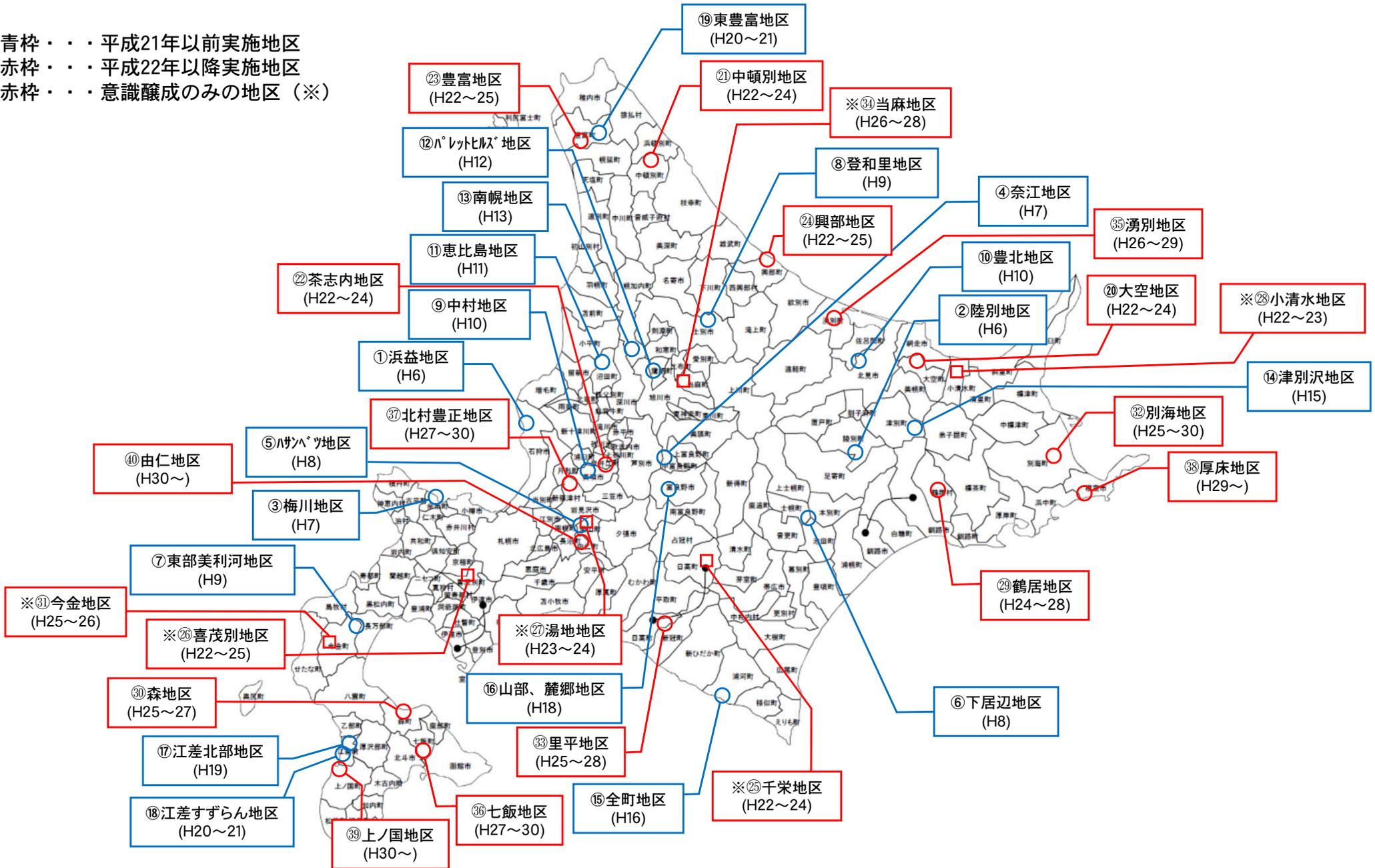
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 事業実施の推移

取組	市町村名	地区名	事業実施年度																																			
			H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36				
			基金造成期間						事業実施(第0期)						第1期事業実施計画						第2期事業実施計画						第3期事業実施計画						第4期事業実施計画					
モデル地区調査・先進事例研究	浜益村	浜益																																				
	陸別町	陸別																																				
	余市町	梅川																																				
	中富良野町	奈江																																				
	栗山町	ハサンベツ																																				
	士幌町	下居辺																																				
	今金町	東部美利河																																				
	朝日町	登和里																																				
	美瑛市	中村																																				
	端野町	豊北																																				
	沼田町	恵比島																																				
	鷹栖町	パレットヒルズ																																				
	幌加内町	南幌																																				
	津別町	津別沢																																				
	浦河町	全町																																				
	富良野市	山部・麓郷																																				
江差町	江差北部																																					
江差町	江差すずらん																																					
豊富町	東豊富																																					
地域活動支援	大空町	大空																																				
	中頓別村	中頓別																																				
	奈井江町	茶志内																																				
	豊富町	豊富																																				
	興部町	興部																																				
	日高町	千栄																																				
	喜茂別町	喜茂別																																				
	栗山町	湯地																																				
	小清水町	小清水																																				
	鶴居村	鶴居																																				
	森町	森																																				
	今金町	今金																																				
	別海町	別海																																				
	日高町・新冠町	里平																																				
	当麻町	当麻																																				
	湧別町	湧別																																				
七飯町	七飯																																					
岩見沢市	北村豊正																																					
根室市	厚床																																					
上ノ国町	上ノ国																																					
由仁町	由仁																																					
年度事業費(千円)			1,556	7,591	6,884	7,423	10,565	10,044	5,419	7,132	6,683	9,020	8,040	6,519	6,093	5,104	8,444	10,354	10,620	7,805	7,421	6,177	7,211	9,456	10,963	10,786	10,101	7,938										

■ 住民意識醸成 ■ 実践活動

# 北海道中山間ふるさと・水と土 保全対策事業実施地区

- 青枠・・・平成21年以前実施地区
- 赤枠・・・平成22年以降実施地区
- 赤枠・・・意識醸成のみの地区（※）



◇◆◇ 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る研修計画 ◇◆◇

北海道ふるさと・水と土指導員（以下「指導員」という。）及び北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業等を担当する道・市町村の職員等などが、地域づくりを効果的に支援できるよう、地域支援に対する意識を醸成し、地域マネジメントや地域づくりの具体的な手法などを習得するための研修を実施する。

□研修事業一覧

	項目	方 法 等	対 象	開催実施時期（目安）
1	全国研修会	国内における先進事例を通して支援内容や方法などについて学ぶため、ふるさと水と土保全対策本部農林水産省が共催し及びふるさと保全ネットワークが開催する研修会へ指導員等を派遣する。	指導員、各（総合）振興局、道農村整備設計課	<del>9</del> 月頃
2	地域づくり研修会	中山間地域における農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活発化を図るため、地域マネジメントシステムの考え方や地域づくりの手法等を学ぶために必要な講師を招聘し開催する。	指導員、 <del>国</del> 、道、市町村、土地改良区、 <del>地域づくりリーダー</del> 、 <del>農業者</del> 等	<del>9</del> 1～ <del>10</del> 2月
3	現地研修	<del>指導員会による研修先や実施方法等の提案に基づき、</del> 道内の地域づくり活動の先進地を訪れ、地域づくりに携わるリーダーとの意見交換や具体的な手法を学ぶ現地研修を実施する。	指導員、各（総合）振興局、道農村整備設計課	7～8月、10～11月
4	指導員会（幹事会）	指導員会の効果的・効率的な運営や指導員の資質向上に向けた研修内容等を検討するため、指導員会（幹事会）を開催する。	指導員幹事、道農村整備設計課	<del>6</del> 5～ <del>7</del> 6月、1～2月
5	指導員会（研修会）	指導員相互の情報交換等を推進することを目的に、指導員の活動を推進するために必要な研修（必要に応じて講師を招聘）を、 <del>指導員会の意向等を踏まえ</del> て開催する。	指導員、各（総合）振興局、道農村整備設計課	1～2月
<del>6</del>	<del>ブロック別ミーティング</del>	<del>ブロック毎に地域的課題が異なることなどを踏まえ、全指導員を対象とした集合研修だけではなく、ブロック毎の指導員が交流する機会を設け、情報交換を行うことにより、更なる指導員活動の活性化のため開催する。</del>	<del>指導員、各（総合）振興局、道農村整備課</del>	<del>各ブロックの意向を踏まえ開催</del>
6	指導員会（振興局・ブロック別会議）	振興局で指導員同士の結びつきを強め、活発な交流と意見交換を行うことにより、指導員活動全体の活性化を図るため、振興局又は同一ブロック内の複数の振興局の共催により開催する。	指導員、各（総合）振興局等	適時
7	里づくりの発行	指導員が <u>の</u> 地域づくりに <u>係る</u> への支援 <u>など</u> や、活動の参考になる情報 <u>など</u> を掲載した活動情報誌「里づくり」を発行する。	指導員、市町村、各（総合）振興局、土地改良区等、 <u>日本型直接支払実施団体</u>	7月及び2月
8	<del>web</del> 版里づくり通信（仮）	指導員の当該事業に対する関心を高めるとともに、意識の向上を図るため、各研修の案内及び報告、委員会活動、 <del>或</del> 又は、各指導員の活動報告等の情報を発信する。	指導員、各（総合）振興局	適宜更新（月1回）

# 令和元年度ブロックミーティング及び第2回指導員会幹事会で出された意見の事業への反映について

## 1 北海道ふるさと・水と土指導員の委嘱について

### (1) 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の認知度向上について

市町村の担当者は定期的に異動があることから、初めて北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業（以下「ふる水事業」という。）を担当した場合でも事業や業務内容、市町村のメリットを理解しやすい市町村担当者向けのチラシの作成を検討する。

振興局や市町村職員に活用してもらうため、地域活動を活性化するため支援が必要な地区の掘り起こしや、地域活動を活性化するための指導等を行う人材の掘り起こしなどにも使える、事業内容を分かりやすく記載したチラシ等の作成を検討する。

また、新規に北海道ふるさと・水と土指導員（以下「指導員」という。）になっていただく方に、指導員になった場合にどのようなことを行うのかを分かりやすく記載した手引の作成を検討する。

#### ア 市町村担当者向けのチラシ

(ア) ふる水事業の概要（パンフレット等から抜粋して記載）

(イ) ふる水事業の実施による市町村のメリット（地区完了時のアンケートを抜粋して記載）

(ウ) ふる水事業の実施に係る市町村の役割（実践地区及び指導員の候補探しと手続き等を抜粋して記載）

#### イ 事業内容をわかりやすく記載したチラシ

(ア) ふる水事業の概要（パンフレット等から抜粋して記載）

(イ) ふる水事業でできること（実施地区と支援内容の紹介）

(ウ) ふる水事業でできること（指導員の活動と支援内容の紹介）

#### ウ 指導員の手引

(ア) ふる水事業の概要（パンフレット等から抜粋して記載）

(イ) 指導員の活動と支援内容の紹介

(ウ) ふる水指導員に支給する旅費

### (2) 指導員の委嘱ルートについて

現在、市町村長又は土地連会長理事の推薦により委嘱をしているが、JAで熱心に活動している青年部や女性部の方が指導員になりやすくなるようJAルートを新設することを検討する。

#### ア JAルートの新設

(ア) 事業概要の説明

(イ) JAの参加によるメリットの説明

(ウ) JAに担当してもらう事務の説明

## 2 指導員研修の効果的な実施について

### (1) 日程の事前周知について

できれば開催の3ヶ月以上前には日程を周知して欲しいという意見があったことから、研修事業の日程について、2月に開催する幹事会で翌年度の研修事業の日程について決めることとしたい。

### (2) ブロックミーティングについて

平成26年度の試行も含めて6年間行ってきたブロックミーティングについては、指導員が参加しやすいようにと始めたが、内容が現地研修と変わらなくなってきた、参加者についても明確な増加が見られないといった意見があった。

しかしながら、ブロックミーティングがあった方が指導員同士の情報交換の場が増えて良いという意見もあったことから、以下のとおりとすることを検討する。

ア 現行のブロックはそのまま残したうえで、現地研修を年2回行う。

現地研修は、道東ブロックと道北ブロックのどちらか、道央ブロックと道南ブロックのどちらかで時期を分けてそれぞれ1回開催し、指導員はそのどちらにも参加することができる。

イ 新たに、振興局の主催又は同一ブロック内の複数の振興局の共催により指導員会振興局・ブロック別会議を開催することができる。

指導員会振興局・ブロック別会議では、

(ア) 指導員の活動報告などの情報交換

(イ) 講師（道内）を招いて講演を受ける

などを行うことができる。

なお、本会議は、該当振興局所在地の他、管内市町村で行うことができ、同日での実施が可能な場合には当該市町村に存する先進地等の視察をすることができる。

### (3) 地域づくり研修会について

地域づくり研修会は、地域マネジメントの考え方や具体的手法等を学ぶための重要な研修であることから引き続き実施する。

また、参集範囲については現在「北海道ふるさと・水と土指導員、北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員、市町村職員、土地改良区職員、地域づくり実践者、北海道職員ほか関係機関職員等」としているが、「地域づくり実践者」を「地域づくりに関心を有する農業者等」に改める。

### (4) 指導員会（幹事会）について

指導員会（幹事会）は、会長及び副会長の選任や、地域活動支援地区や指導員の掘り起こしに向けた意見交換、資質向上に向けた効果的な研修内容及び研修日程等について意見を伺うため引き続き年2回実施する。

### (5) 指導員会（研修会）について

指導員会（研修会）は、道内指導員同士が事例発表などを通じて情報交換を行うことを目的として実施してきたが、地域づくり研修会で学んだことについて指導員同士で意見交換（振り返り）を行いたいという要望があったことから、地域づくり研修会の翌日に開催することとし、前日に学んだこと感じたことを地域づくりにどのように

生かしていくかなどについて意見交換を実施する。

(6) 里づくりの発行について

平成22年度から毎年発行してきた冊子版の里づくりについては、指導員の地域づくりへの支援や、活動の参考になる情報の提供は引き続き必要なことから引き続き実施することとし、配布先にJAや日本型直接支払活動団体等を加える。

(7) Web版里づくりについて

平成26年度から毎月発行してきたWeb版里づくりについては、指導員の当該事業に対する関心を高めるとともに、意識の向上を図るためには、各研修の案内及び報告、委員会活動、又は各指導員の活動報告等の情報を発信が必要なことから引き続き実施するが、(6) 里づくりと区別するため、新たな名称を検討する。

### 3 指導員会について

(1) 指導員会については、地域住民活動の活性化に関する推進指導及び助言等を行う指導員の資質向上を図るための指導員相互の情報交換と交流を目的として明記するとともに、新たに振興局・ブロック別会議を位置づけ、幹事、役員を選任に係る規程を整理する。

(2) 会長及び副会長については任期を2年以内とし、同じ役職につき3期を超えないものとする。

令和2年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業スケジュール（案）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会		第1回							第2回			第3回	
委員による意見交換会		幹事会で検討した本年度の研修事業の方向性や選任された指導員会役員を報告。	上ノ国地区、厚床地区、由仁地区							翌年度の研修日程等を協議。			
指導員関連事業		幹事会（札幌）	指導員会振興局・ブロック別会議（各振興局等）								幹事会（札幌）		
		任期が到来する会長、副会長について互選。本年度の研修事業の詳細を検討。					（仮） 現地研修（道北道東又は道央道南）			任期が到来する幹事の後任を選任。次年度の現地研修、振興局・ブロック別会議の開催について協議。	地域づくり研修会（札幌）		
						全国研修（東京）					指導員会ブロック別会議（札幌）		
											指導員会（札幌）		
その他	Web版里づくり（毎月）			情報誌里づくり21号						農水省ふる水基金全国担当者会議		情報誌里づくり22号	